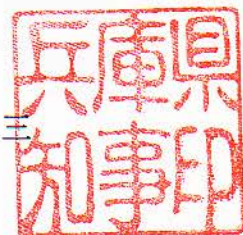


工 第 1419 号
平成30年3月2日

兵庫県工業技術振興協議会
会長 宮脇 隆一郎 様

兵庫県知事 井 戸 敏 三



「兵庫県への要望」に対する回答について

平成29年9月20日付けで貴協議会より要望のありました標記の件について、別添のとおり回答します。

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>1 工業技術センターの正規研究員の積極的な増員</p> <p>(1) 輸送貨物包装を専門とする職員の新規採用</p> <p>(2) ゴム材料を専門とする職員の新規採用</p> <p>(3) 炭素繊維材料開発を専門とする職員の増員</p> <p>(4) 播州織の産地支援体制を継続するための職員の増員</p> <p>(5) 皮革製品製造を専門とする職員の新規採用</p> <p>(6) 酒造・醸造分野を専門とする職員の増員</p> <p>(7) 鋳造等の素形材分野を専門とする職員の増員</p> <p>(8) めっき技術を専門とする職員の増員</p>	<p>工業振興課</p> <p>工業技術センター</p> <p>産業政策課</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>兵庫県では、新行革プランにおいて、県全体で平成20年度から平成30年度までの間に事務事業・組織の徹底した見直しにより、概ね3割の定員削減を行うこととしている。</p> <p>このような非常に厳しい状況の中ではあるが、平成30年度に機械系の研究員1名の採用が決定している。</p> <p>また、県立大学産学連携・研究推進機構と連携した工業技術センターの相談対応の充実（コーディネータによるハローテクノ対応）や、新たに県立大学教員をアドバイザーに委嘱（25人）するなど、研究体制の強化を図っている。</p> <p>研究員の採用や人員配置については、適正配置を心がけ、業務に支障が生じないよう、ニーズの高い分野においては、新規の研究員の採用に努めるとともに、OB職員の活用や県立大学との連携も含めて、工業技術センターの機能を維持するようしていきたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>2 工業技術センター等に設置する試験機器・設備の充実</p> <p>(1) 加硫判定機、ムーニー粘度計、摩耗試験機 (ゴム関連機器の更新)</p> <p>(2) 風合い計測機、熱特性測定機、3次元X線CT装置等の設置 (産地支援用機器整備)</p> <p>(3) 革漉き機 (皮革関連機器の更新、設置)</p>	工業技術センター
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>機器の導入及び更新には、業界からのニーズに加え、その稼働率なども考慮している。要望機器について、導入後に見込まれる稼働率や業界の動向など踏まえて導入等を検討していきたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>2 工業技術センター等に設置する試験機器・設備の充実 (4) 水素ビジネスへの参入を目指す企業のため、高圧水素ガス機器の圧力試験ができる試験設備の設置および液体水素関連設備の設置</p>	<p>水エネルギー課 工業振興課 工業技術センター</p>
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>本県では、企業や研究機関等の参画を得て「水素社会戦略研究会」を設置し、水素社会の実現に向けた取組について検討を行っている。</p> <p>また、県内中小企業の水素関連産業への参入促進も重要な課題であると認識しており、水素関連製品の開発に必要な評価試験が迅速にできるよう、引き続き県内への試験機関の整備を国に働きかけていく。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>3 ものづくり人材育成の取り組み (1) AI(人工知能)、IoT(モノをインターネット経由で通信させる)技術のセミナー、研修会等の充実</p>	工業振興課
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>中小製造業の人手不足への対応、生産性向上・競争力強化をはかるため、平成30年度より</p> <ul style="list-style-type: none">① IoT導入事例紹介等のセミナー開催やIoT導入相談窓口の設置② 中小製造業のAI・IoT・クラウドの導入に向けた専門家の派遣や実現可能性調査など、初期段階の検討レベルでの支援③ 中小製造業の製造現場等のIoT・ロボット導入を促進するため、現場での実証を伴走型で支援④ IT企業によるIoT導入先進事例の紹介やIoTに関心のある中小製造業とIT企業とのマッチング支援 <p>等の取り組みを検討しており、中小製造業がAI・IoT等を製造現場等に効果的に導入できる環境を整えていきたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>3 ものづくり人材育成の取り組み (2) 工業技術センターの三木市でのセミナーの開催の継続</p>	工業技術センター
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>工業技術センターでは、従来から県内企業を直接訪問して、センターの業務紹介ならびに現地での技術相談対応を行っている。特に三木・小野地区の企業に対しては、『集中企業訪問』として重点的な訪問活動を行い、企業ニーズの把握に努めている。</p> <p>今後も引き続き、商工会議所、関連業界と連携して移動工業技術センターや企業訪問を実施することで、地域産業の技術力向上を図るための支援を引き続き行っていきたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>3 ものづくり人材育成の取り組み (3) 皮革大学校等の技術講習会の充実</p>	<p>皮革工業技術支援センター 工業振興課</p>
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>皮革工業技術支援センターでは、近畿経済産業局を通じて国からの補助金により、兵庫県皮革大学校を開催している。皮革大学校では、皮革に関する基礎的な知識を得るための座学、皮革製造の実習としての鞣しと仕上げ、更に皮革二次加工技術を学ぶため衣料・バッグ・靴の製造実習を行っている。</p> <p>近年では、製革業者が素材としての革を製造することに留まらず、自社において革製品への二次加工展開を図るところが増えてきて、多くの受講希望が寄せられている。</p> <p>しかし、それらの受講生の中には、加工に必要不可欠なマシン操作の技術を身につけていない場合が多々見られる。そこで、マシンの基本を身につけるための新規実習を開催して、皮革二次加工の技術講習会を充実させていきたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>3 ものづくり人材育成の取り組み (4) 学校の授業において「めっき」などの化学実験や体験ができる環境の充実</p>	<p>教育委員会事務局 義務教育課 高校教育課</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>サイエンス・トライやる事業では、小学校教員の実験等の指導力を向上させるため「高等学校教員等による観察・実験実技研修」を行っており、薬品の取扱いや水溶液と金属に関する実験の効果的な方法を研修するなど、化学実験等の指導力向上に取り組むとともに、小・中学校において「スペシャリスト（企業研究者等の専門家）による特別授業」も実施しており、炭素繊維の特徴紹介や、おもしろサイエンスショー等の実験や体験を授業で行うことにより、児童生徒の科学技術に関する興味・関心を高める機会としている。さらに、ものづくり体験館での金属塗装や時計の組み立て等、中学生が実際に体験する学習を推進している。</p> <p>また、中学2年生が地域の中で様々な体験活動を1週間行う「トライやる・ウィーク」では、製造業（金属加工等）の事業所等で活動した生徒が、体験したことや学んだことの発表会等を通じて、活動した生徒だけでなく他の生徒も、ものづくりの良さや、やりがいを知る機会となっている。</p> <p>高等学校では探究的な活動を重視し、課題研究などをおして、課題の設定、結果の分析および考察、さらにそれらを表現するなどの学習活動に取り組んでいる。めっきについては、化学基礎の「酸化と還元」の単元で取扱い、しくみや方法等について基本的な内容を学び、多くの学校で観察・実験等も実施している。</p> <p>県教育委員会では、見通しをもった観察実験を通じて、自ら問題解決を図ろうとする児童生徒の育成のため、観察実験等の授業改善を図る取組を行っており、今後も、これらの取組の充実を図り、科学技術系人材育成につとめていく。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>3 ものづくり人材育成の取り組み (5) 若者に淡路瓦をアピールするため、県立大学や建築専門学校での出前授業についての支援</p>	<p>工業振興課 工業技術センター</p>
<p>要望事項についての現状と今後の取り組み方向等</p>	
<p>淡路瓦工業組合が平成25年度に県立但馬技術大学校において建築工学専攻の生徒を対象として淡路瓦のPR講義及び施工実演を実施されており、こうした事例を参考にしながら、大学、専門学校においても同様の取り組みができるように支援していきたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>4 補助金や助成金制度の充実 (1) 土壌汚染対策に関する調査・措置への助成金の拡充</p>	工業振興課
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>土壌汚染対策については、汚染者負担の原則により汚染者自らの負担によりその対策を行うことが必要であると考えるのでご理解いただきたい。</p> <p>なお、工場等の移転による跡地の土壌汚染対策の場合には、低利な県制度融資の利用ができる場合があるので、最寄りの県制度融資取扱金融機関にご相談いただきたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
4 補助金や助成金制度の充実 (2) めっき技術や排水処理に関する設備投資への補助金・助成金の充実	工業振興課
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>成長産業分野の育成を図るため、産学官連携による研究調査を支援する「兵庫県最先端技術研究事業（COEプログラム）」の補助金により中小企業の研究開発支援を行っているほか、設備投資に対応する「設備投資促進貸付」による低利な県制度融資があることから、これらの制度をご活用いただきたい。</p> <p>また、中小企業の自社開発促進や設備投資に対する補助金として、国の「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援事業」が活用されており、県としても活用できるよう支援してまいります。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
4 補助金や助成金制度の充実 (3) 県の特産品への補助金制度の創設	工業振興課
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>地域創生を進めていくうえで、地域に根ざす地場産業の活性化は不可欠である。</p> <p>このため、産地組合が取り組む国内外の展示会等の出展・開催、新製品・新技術等の開発等を支援している。</p> <p>また、産地内の意欲ある企業等が、その産地の有する優れた素材・技術等を有効に活用して行う新商品・新技術開発、販路開拓等を支援している。</p> <p>今後とも、産地組合や産地企業等の取組を積極的に支援し、地場産業の振興を図っていく。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>5 その他重点要望事項</p> <p>(1) 技術の高度化・専門化に対応するため、大学への派遣、全国の企業視察等、研究員のスキルアップ対策を充実</p>	工業技術センター
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>研究員のスキルアップを図るため、大学の研究生制度や国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）の研修制度を利用して研究員を派遣してきている。今年度は、産総研の地域産業活性化人材育成事業を利用し、研修生として2名派遣した。来年度は京都大学の研修員受け入れ制度に1名派遣予定である。また、民間専門派遣研修などの研修制度も活用し、研究員のスキルアップを図ってまいりたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>5 その他重点要望事項 (2) 平成29年度から実施を予定している耐寒瓦の凍害暴露試験への支援をお願いしたい</p>	工業技術センター
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>工業技術センターでは平成24年度から、淡路瓦技術研究会・淡路瓦工業組合と共同で、県内の冬季寒冷地である豊岡・朝来・宍粟の三か所における凍害暴露試験を実施してきた。今後も新たな耐寒瓦の凍害暴露試験を実施する計画があれば、引き続きこれを積極的に支援したい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
5 その他重点要望事項 (3) 既存の瓦製造装置の活用について、指導研究を仰ぎたい	工業技術センター
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>工業技術センターではこれまで、淡路瓦技術研究会・淡路瓦工業組合と共同で、いぶし瓦の風合いを活かした景観材や壁材・床材などの開発に関連して分析・試験評価等の支援を行ってきた。今後も既存の瓦製造設備をさらに有効活用できる新たな製品開発を目指して、引き続き技術支援を行っていきたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>5 その他重点要望事項 (4) 工業技術センター職員等による三木市での技術相談対応</p>	工業技術センター
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>平成29年度も引き続き、三木・小野地区企業への集中企業訪問を行っており、企業ニーズの把握と技術相談に対応している。また、次年度以降は商工会議所、関連業界と連携して、移動工業技術センターの実施、講演会の開催や技術相談対応等に努め、今後も地域産業の技術力向上を図るための支援を引き続き行っていきたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>5 その他重点要望事項 (5) 振興協議会に所属する研究会と試験・分析研究会の交流を目的に開催する交流会に対する協力</p>	工業技術センター
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>振興協議会に所属する各研究会の会員間の交流や意見・情報交換の促進は、産業界全体の技術力の向上や製品開発にとっても有意義なことである。そこで、工業技術センターとして「ひょうご技術交流大会（例年6月）」や「工業技術センター研究成果発表会（例年10月）」を毎年開催し、会員交流の機会を提供している。</p> <p>また、兵庫県試験・分析技術研究会をはじめとする各研究会が主催するイベント等については、工業技術センターのセミナー室の提供をはじめ、所内へのポスター掲示、ホームページやSNS等による広報活動、さらには振興協議会会員への情報提供を各研究会事務局と連携して積極的に実施している。今後もこのような取り組みを継続し、さらなる交流活動の活性化を支援してまいりたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
5 その他重点要望事項 (6) 講師謝金等の助成など研究会事業を充実させる制度の創設	工業技術センター
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>工業技術センターとしては、各研究会が主催する講演会・セミナー等のイベントについて、工業技術センターのセミナー室の提供をはじめ、所内でのポスター掲示・ホームページ等による広報活動、さらには振興協議会に所属する各研究会会員への情報提供を研究会事務局と協力して積極的にサポートしている。</p> <p>現時点では予算にも限りがあり研究会事業への助成は行っていないが、平成26年度より振興協議会に所属する各研究会会員を対象とした「異業種交流活性化支援事業」がスタートしており、こちらの支援事業では講師の謝金や旅費等も経費として認められている。このような既存の補助金を研究会内の会員で連携し対応いただきたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>5 その他重点要望事項 (7) 兵庫県工業技術振興協議会や他団体との交流の場の増加</p>	工業技術センター
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>工業技術センターでは、振興協議会と共催で研究会の研究会会員相互の意見交換の機会を提供する目的で「ひょうご技術交流大会（例年6月）」や「工業技術センター研究成果発表会（例年10月）」を毎年開催している。これらのイベントでは、研究会会員企業のみならず、会員外の企業、兵庫県内の大学、技術支援機関、金融機関等多方面の団体にも参加いただいている。</p> <p>また、振興協議会に参画する各研究会の講演会・セミナーの開催案内や活動状況報告を振興協議会のホームページ等で適宜紹介し、研究会相互の交流に寄与できるよう努めており、今後もこの取り組みを積極的に続けてまいりたい。</p>	

兵庫県への要望に対する回答

要望事項	関係部署
<p>5 その他重点要望事項 (8) 県施設の新築・改築情報の提供や県施設での淡路瓦利用についての働きかけ</p>	工業振興課
要望事項についての現状と今後の取り組み方向等	
<p>県立施設のうち、瓦を使用する施設は限られているが、可能な範囲で新改築情報の提供や淡路瓦の使用の推奨に努めていきたい。</p>	

